

令和7年度 国立山口徳地青少年自然の家 教育事業

アドベンチャープログラム研修会兼指導者養成講習会

令和7年11月22日（土）～24日（月・祝） 2泊3日

【目的】

徳地アドベンチャー教育プログラム（以下「TAP」）を中心とした体験や講義、実習を通して、人間関係の構築や社会情動的スキルの向上を目的としたグループワークの指導者に求められる知識・技能を習得する機会を提供することで、参加者の指導能力の向上に資する。

【参加者】13名

【プログラムの内容】

- 1日目 開講式・オリエンテーション、体験、講義・演習「アクティビティの特性」
- 2日目 講義・実習「安全管理、エレメントの使用方法」、講義・演習「活動の組み立て、ファシリテーション」
- 3日目 実習「プログラムの指導」、ふりかえり、閉講式

体験



お互いを知り合ったり、緊張をほぐしたりするアイスブレイク、グループでのコミュニケーションや意思決定を必要とするイニシアティブやローエレメントの体験を通して、活動を理解する。

講義・演習「アクティビティの特性」



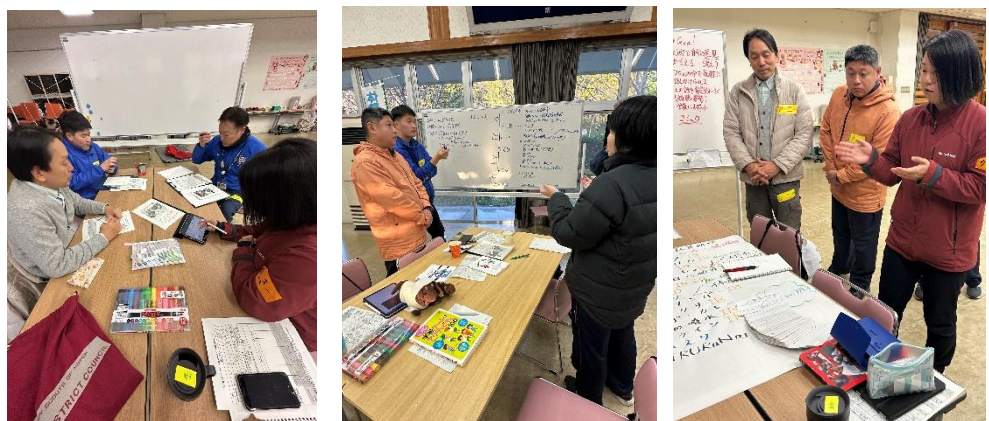
講義・演習を通してアクティビティのもつ特性や種別・タイプ、活用方法について理解する。

講義・実習「安全管理、エレメントの使用方法」



TAPにおける安全管理の考え方やエレメントの使用方法について、講義・実習を通して理解する。

講義・演習「活動の組み立て、ファシリテーション」



グループの状態を見立てて活動を組み立てる方法と、活動中のファシリテーションの原則・技法について理解し、仮想の団体を対象に3時間の活動を組み立てるグループ演習を行う。

実習「プログラムの指導」



グループ演習で作成した活動の一部を切り取り、参加者に対してプログラム指導を行い、ファシリテーションの見通しをもった活動の組み立て方について総合的に学ぶ。

【参加者の声】

- ・体験の時間が多くあったので、アクティビティの特性を参加者の立場で考えることができた。また、後半はその体験をもとに、シークエンスの組み方や安全管理について考えることができた。
- ・様々な方々と交流することができ、また現場で実際に指導されている・されてきた方々の指導の仕方や考え方を知ることができとても有意義な時間だった。

【成果と課題】

◎昨年度の1泊2日の実施から今年度2泊3日の実施に戻したことで、体験を通した学びを効果的に参加者に提供することができた。

▲「活動の組み立て」や「プログラムの指導」の振り返りの時間が少なかったことが参加者の声からも上がっていたので、振り返りの方法や時間配分等を工夫して実施する必要がある。

▲参加者の中から「せっかくの研修機会なので、山口県の参加者が増えるよう、より一層の工夫を望みたい」という声があった。本所の研修指導員の養成・確保という点からも山口県内の青少年教育担当部局や青少年教育施設、学校に対して積極的に広報を行うなど、引き続き連携を強化していくことが必要である。